

# 神戸大学

## Kobe University China Office

100190

北京市海淀区中關村北四環西路33号 中国科学院文献情報センター 616室

[http://www.office.kobe-u.ac.jp/opie/chinaoffice/index\\_zh.html](http://www.office.kobe-u.ac.jp/opie/chinaoffice/index_zh.html)

TEL : +86 (0)10 6253 8332

FAX: +86 (0)10 6253 8664

E-mail: opie-chinaoffice@office.kobe-u.ac.jp

### 福田学長、北大・清華大・北京外大を訪問

2011年9月1日、福田秀樹学長、佐々木衛神戸大学中国事務所副所長（日本学術振興会北京研究連絡センター長）、釜谷武志人文学研究科長らが北京大学の李岩松副学長を表敬訪問しました。懇談の中で福田学長は、教員間の交流をより一層促進し学術交流や学生交流に繋げること、さらに、中国事務所を活用した交流を実施したいとの意向を示しました。

一行は同日午後、清华大学の韓景陽副学長を表敬訪問し、防災分野を中心としたこれまでの交流について説明するとともに、今後の発展について強い意欲を示しました。懇談で両校は、公共安全研究員や防災減災研究所の研究者も参加した形での共同研究及び大学院生の共同養成を行うことを約束しました。

翌9月2日には、北京外国语大学の陳雨露学長を表敬訪問し、今後も両校において全力で国際交流を推進していくことを確認しました。



### 第7回目中学長会議

2011年10月12～13日、日本17大学、中国16大学が参加し、京都で第7回目中学長会議が開催されました。

神戸大学から福田秀樹学長、中村千春理事・副学長、黄磷経営学研究科教授が出席しました。

日中双方の学長ら約145名が一堂に会し、「大学の質の向上について」及び「大学の国際化について」話し合い、日中の学術及び学生交流の促進を確認しました。福田学長は「大学の国際化について」の議題で議長を務め、今後、ワーキンググループを設置し、行動に移していくことについて取りまとめました。

さらに福田学長は、周其鳳北京大学長、陳曉漫復旦大学常務副学長、閔乃佳南開大学副学長、林萍華中科技大学常務副学長、李家俊天津大学長と個別に懇談し、教員・学生交流及び共同研究等、さらなる交流推進の必要性を個々に確認しました。



### 都市防災減災ワークショップ・大学説明会

2011年10月15日、日本学術振興会北京研究連絡センターの後援を得て、重慶大学において、「人間環境の安全とサステナビリティ」をテーマとしたワークショップを開催しました。神戸大学からは、工学研究科の塩崎賢明教授、孫玉平教授、向井洋一准教授、都市安全研究センターの藤永隆准教授が参加し、東日本大震災からの復興策をはじめ、既存建物耐震補強技術や免震構造の設計技術について報告しました。中国側参加者からは、四川大地震被災地の再建プランを中心に、高速列車事故に伴う二次災害の防止策や階段耐震設計に関する最新情報が報告されました。

東日本大震災の発生から半年余りということもあり、中国国内において人間環境の安全・都市防災に対する関心が高まっており、学生を含め100名以上が参加し、地震災害をはじめとする様々な災害に対処するための政策立案、防災計画及び技術対策等に関する知見を交換しました。

前日には、神戸大学留学説明会を実施し、重慶大学の学生約130名が参加しました。中国内陆部の学生にとって日本留学の情報を直接得ることができる滅多にない機会となり、参加者からは、神戸大学への留学を考えるきっかけになった等、多数の意見が寄せられました。



## 「大学の世界展開力強化事業」

文部科学省の平成23年度国際化拠点整備事業「大学の世界展開力強化事業」に、神戸大学が申請していた「東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム」(構想責任者：中村千春理事・副学長 / 取組学部・研究科：国際協力研究科、人文学研究科、都市安全研究センター)」が採択されました。

本プログラムでは、神戸大学、復旦大学(中国)、高麗大学校(韓国)がコンソーシアムを構成し、3大学が有する世界レベルの大学院教育を通して「東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家」を養成することを目的としています。

具体的には、現在の各大学院のカリキュラムをレビューし、新しいカリキュラムを3大学院間で構築することにより、①自然災害時のみならず、経済危機、社会情勢危機時におけるリスク・マネジメントに関わる応用力のある専門的な知識とスキル、②3ヶ国が拠点となり日本・中国・韓国に関する政治・経済・人的資源開発・開発運営を含む社会科学全般の専門性、③自国語に加えて英語と現地語による政策・実施支援ができるレベルのコミュニケーションスキルを習得して、④異文化を理解した上で、公共機関や国際機関、NPOにおいて世界の危機時における問題の分析、政策策定を主導し、さらに、災害の現場で活躍できる専門家の養成を目指します。

HP : <http://www.edu.kobe-u.ac.jp/gsiccs-cp-asia/>

## 第9回国際文化産業フォーラム

2012年1月7～8日、北京大学が主催し、中国文化部等が後援する「第9回国際文化産業フォーラム」が北京大学で開催され、中村千春理事・副学長が基調講演を行い、油井清光人文学研究科教授が報告を行いました。本フォーラムは、文化産業における产学研官連携及び交流の推進を目的とし、“学術と現実の融合、戦略と発展の革新”の理念のもと、文化産業の理論と実践の相互発展に焦点を当てています。

中村理事・副学長の基調講演では、日本における文化産業の概要、文化産業を取り巻く产学研官連携の現状と今後の展望、神戸大学の产学研官連携による国際戦略とその活動等についての紹介及び提案が行われました。基調講演の中で、大学や企業が集結する関西地区を例に上げ、国際都市の利点を活かした、产学研官連携による共通プラットフォームでの人材育成モデル、また、コンテンツ、流通・市場及び技術を融合した新産業形成モデルを紹介しました。

油井人文学研究科教授は、アニメなど日本のポピュラーカルチャーを例とした文化産業の展開について、また、大学間の国際的な協働教育体制の形成による文化産業教育の可能性について講演を行いました。講演の中で、大学間で国際コンソーシアムを形成し、教職員や学生の交流を通じ、各大学が有するリソースを相互活用することに加え、各国の企業とも連携することにより、さらなる人材育成の推進及び文化産業の発展に繋げることを提案しました。



## 合同大学留学説明会

日本学術振興会北京研究連絡センター主催の留学説明会は、貴州地区(2011年7月4日 貵州大学)、上海・南京地区(10月24日 南京大学、25日 華東理工大学)、長春・瀋陽地区(11月1日 東北大学、3日 吉林大学、4日 中国赴日本国留学生予備学校)、大連地区(2012年3月10日 大連理工大学、11日 大連外国语学院)の8大学等で開催され、神戸大学は全ての説明会に参加しました。

南京大学や吉林大学は有力な総合大学であり、日本語専攻の学生や多様な専門分野を学ぶ優秀な学生が多数来場し、神戸大学の認知度を高める良い機会となりました。

東北師範大学赴日予備学校では、中国赴日本政府文部科学省奨学生留学生(以下、国費留学生)の採用者が約110名来場し、関心のある専門分野に関する具体的な質問が寄せられました。国費留学生以外に、東北師範大学の学生も多数来場しました。

大連は日本語学習者数が中国で最も多い都市と言われており、大連理工大学と大連外国语学院で行なわれた留学説明会には、予想を上回る学生が来場しました。大連理工大学では、専門知識を有し、かつ日本語も学習する学生が多数見受けられたのが特徴的でした。大連外国语学院日本語学部で日本語を学習する学生は約3,200名(2009年)おり、当日は約1,100名の学生が来場しました。両日の説明会とも、日中両国のメディアによる取材が行われました。

日本学術振興会北京研究連絡センターによると、2012年度の留学説明会は、南昌大学、中山大学、中国人民大学、西安交通大学、復旦大学、東北師範大学赴日予備学校、東北大学で開催される予定です。



## 中国神戸大学同窓会（北京）

2011年5月に開催した第20回中国神戸大学同窓会（北京）の集いでは、2011年4月から日本学術振興会北京研究連絡センター長に就任した佐々木衛人文学研究科教授の歓迎会を行いました。9月に開催した集いには、福田秀樹学長をはじめ神戸大学関係者14名の他、三菱商事副社長兼中国総代表、日中経済協会出向者、及び日本語教育重点中学教師等17名が参加しました。12月に開催した集いには、黄磷経営学研究科教授及び田倉裕美国際企画課専門職員が参加し、さらに交流の輪を広げることができました。

中国における神戸大学のプレゼンスを高め、中国国内でのネットワークを発展させるためには、今後、神戸大学と中国の各同窓会がより一層緊密に連携・協力することが不可欠です。



## 中国事務所活動報告会

国際交流推進本部は、2012年5月17日に神戸大学中国事務所の李小穎所員による、中国事務所の活動報告会を開催しました。

約30名の出席者を前に、2011年度に中国事務所で携わった活動内容について、特に「中国各地区で参加した留学説明会・シンポジウムでの様子や成果」、「入学志願者からの問い合わせ内容」に焦点をあてた報告が行われました。

さらに、中国高等教育をとりまく現状や中国人学生の留学動向についての調査結果が報告され、本学及び中国事務所として今後検討すべき課題について、複数の提案がありました。

報告後、参加者の間でホームページの戦略的な活用や中国公費派遣留学生制度の現状等が検討課題として上がり、今後、中国における神戸大学のプレゼンスをより一層高めるとともに、優秀な中国人留学生をいかに効果的に獲得することができるかについて、活発な意見交換が行われました。



## 国際交流促進事業

### 復興減災ジョイントワークショップ

2011年5月11日、被災経験のある大学〔神戸大学（日本・1995年 阪神淡路大震災）、ガジャマダ大学（インドネシア・2006年 ジャワ島中部地震）、成都理工大学（中国・2008年 四川大地震）〕が、東日本大震災に関する最新の知見を踏まえた上で、将来の震災に備え、経験と知の蓄積を共有すること目的に、中国工程院において、「地震・津波からの減災復興戦略ワークショップ」を開催しました。

神戸大学からは、都市安全研究センターの吉岡祥一教授、北後明彦教授、林大造特命講師が、東日本大震災に関連した今後の対応や復興課題、さらに、阪神淡路大震災から東日本大震災までの災害ボランティア活動の変遷について報告しました。

中国側は、清华大学、大连理工大学、广州大学、中国水利水力发电科学研究院等から、中国の原発耐震設計への対策についての報告があり、災害に対する危機意識及び関心の高さを感じさせるものとなりました。

本ワークショップは、最新の災害現地状況を踏まえた報告と大規模災害対応の問題点を重ね合わせて、今後の方向性を見定める貴重な機会となりました。

### 神戸大学・浙江大学共催国際シンポジウム

2011年7月2日、「東アジアの地平から見た辛亥革命の思想的価値——近代化と留学交流の意義」と題するシンポジウムを、神戸大学瀧川記念学術交流会館で開催しました。

周恩来、魯迅、蒋介石、陳獨秀など、辛亥革命の思想に貢献し、その影響を受けた中国近代史上の思想家・運動家の多くは、日本に留学した浙江省出身者と浙江大学関係者であり、その意味から、辛亥革命は「国際交流」の結果であるとの見方もあります。

辛亥革命100周年にあたる年に、神戸大学と浙江大学が共催する本シンポジウムは、「国際交流」と「留学」をキーコンセプトとし、東アジアという地理的空間、中国人による「日本留学運動」がもたらしたアジア近代思想との連関という思想的空間において、辛亥革命のもつ意味を明らかにすること目的として開催されました。

阪野智一国際文化学研究科長及び王柯国際文化学研究科教授による司会のもと、羅衛東浙江大学副校长等による講演・報告・討論が行われました。

本シンポジウムには150名以上が出席し、辛亥革命と日本との関係、延いては日中関係に対する人々の関心の高さを確認する場となりました。



## 現代サブカルチャーシンポジウム・大学説明会

2011年9月2日、「現代日本サブカルチャーをめぐる現代中国との対話—国際研究拠点の展開を通じた神戸大学プレゼンスの拡大強化」と題するシンポジウムを北京外国语大学で開催しました。

神戸大学から福田秀樹学長、中村千春理事・副学長、釜谷武志人文学研究科長、北京外国语大学から陳雨露学長、徐一平北京外国语大学日本学研究センター長、さらに、在中国日本国大使館の山田重夫公使、国際交流基金北京事務所の杉田松太郎所長がシンポジウムに参加しました。

本シンポジウムは、文部科学省「科学技術試験研究委託事業」を基礎とし、現代日本の文化現象に対する先端的な研究のひとつである、マンガ・アニメのグローバルな調査研究体制の確立を目指して、企画・実施されました。

神戸大学の卒業生でもある徐一平教授は、「2つの母校」である神戸大学と北京外国语大学が共同でシンポジウムを開催できたこの日が、生涯最良の日であると挨拶されました。



同日、北京外国语大学日本学研究センターにおいて、神戸大学留学説明会を実施しました。説明会には、北京外国语大学日本語学部の学部生及び日本学研究センターの修士課程1・2年生約70名が参加しました。



## 第4回日豪中健康科学技術フォーラム

2011年10月31日～11月2日、第4回日豪中健康科学技術フォーラムを神戸大学百年記念館六甲ホール他で開催しました。本フォーラムは、2008年に神戸大学、西オーストラリア大学(オーストラリア)及び浙江大学(中国)の3大学間で健康科学技術における協力を進めるための覚書を締結し、同年に神戸大学で第1回のフォーラムを開催して以降、各大学において毎年持ち回りで実施しています。

### 神戸大学ブリーフガイド（中国語）

<http://www.office.kobe-u.ac.jp/opie/chinaoffice/materials/BriefGuide2012.pdf>

1日目の公開レクチャーでは、福田秀樹学長からの歓迎の言葉、田中敬一兵庫県産業労働部観光・国際局長、陳子辰浙江大学副学長からの挨拶に続き、前田盛兵庫県病院事業管理者・神戸大学名誉教授から、日本の医療制度と政策の現状と課題について、デヴィッド・スマス西オーストラリア大学教授から、オーストラリア政府が取り組む eHealth 政策について、寿張飛浙江大学准教授から、中国における医療状況について説明がありました。パネルディスカッションでは、羅志偉システム情報学研究科教授が議長となり、医療とヘルスケア、ヘルスケアのための工学技術の臨床応用における問題点、高齢化社会と健康の問題点等について議論しました。2日目は終日3大学の研究者22名による研究セッションを行い、最終日には各グループのまとめが報告され、今後の共同研究について検討しました。

ロビン・オーウェン西オーストラリア大学副学長は、日本、オーストラリア、中国は経済交流が活発であると共に、各大学が位置する地域も姉妹州として協力関係が構築されており、3大学が連携する意義は大きいことを強調した上で、今後実質的な成果が生まれていくことに強い期待を示しました。



## 東アジア域における「輸送三原則」の実現を探る：上海交通大学との共同事業

2011年12月21日～23日、上海交通大学の史小寧講師、胡小軍講師が海事科学研究科を訪問し、海事科学研究科が実施している「輸送の三原則を統合した国際海上輸送システム創出の研究」の全体会議において特別講演を行いました。さらに、輸送の三原則（国際海上輸送の安心と安全・経済性・環境保全）に関する研究室を見学し、海上輸送、港湾工学、エネルギー・環境に関する研究について、幅広く意見交換を行いました。

共に東アジアに位置する国際港湾都市である上海と神戸の大学において展開されるべき、持続的な国際海運に必要不可欠な科学技術研究と教育に関するセミナーを開催できることは非常に意義深いことでした。さらに、名門大学のひとつである上海交通大学と共に研究課題に取り組み、相互に研究成果を共有したことにより、神戸大学のプレゼンスを一層高めることができました。